

国際津波防災学会第4回総会  
オンライン開催  
2020年11月6日 13:15-13:30

# 津波防災対策検討分科会活動報告 (2019年11月～2020年10月)

市川 洋・浜田 英外・増田 光一  
(国際津波防災学会 津波防災対策検討分科会)

# 講演者略歴

氏名：市川洋(いちかわ ひろし)

生年月：1949年5月

出身：北海道

最終学歴：京都大学大学院理学研究科博士課程修了(1978年)

職歴： 鹿児島大学水産学部(1979年8月～2005年9月)、海洋研究開発機構(2005年10月～2015年3月)、独立海洋学研究者(自称、2015年3月～現在)

専門： 海洋学、海洋科学コミュニケーション

氏名：浜田英外(はまだ えいがい)

生年月：1953年12月

出身：高知県黒潮町佐賀

最終学歴：東京大学工学系大学院反応化学科修士課程修了(1978年)

職歴： 日揮株式会社(1978年4月～2015年10月)、防波システム研究所代表(2014年9月～現在)、爆発研究所顧問(2017年7月～現在)

専門： プロセス設計、化学安全工学、環境管理

氏名：増田光一(ますだ こういち)

生年月：1951年

出身：千葉県柏市

最終学歴：日本大学大学院理工学研究科博士後期課程建築学専攻修了(1978年)

職歴： 1978年4月日本大学理工学部建築学科助手。1993年日本大学教授、日本大学特任教授(2016年～現在)

専門： 水波工学、浮体工学、沿岸津波防災工学

# 今日のお話

2019年10月に設置された  
**津波防災対策検討分科会**  
の2020年10月までの1年間の活動の報告

1. 分科会の紹介  
設立趣旨、最終目的、事業全体計画
2. 活動報告
  - 2.1 広報・会員募集活動
  - 2.2 分科会集会
  - 2.3 第1回公開検討会

# 1. 分科会の紹介

## 1.1 設立趣旨

各地域住民が、防潮堤や津波避難訓練などに限定することなく、その実情に合わせて、津波防災対策計画を立案する際に参考となるガイドライン(指針)を、分野横断的に検討する。

津波災害の特徴を他の自然災害と比較して整理すると同時に、津波防災に関連する学協会・組織の津波防災対策策定指針の内容を調査・検討する。

このことを通して、体系化された津波防災対策に基づいた、本学会独自の津波防災計画策定指針(案)の全体像を作成し、提案することを目指す。

幹事：市川洋・浜田英外、相談役：増田光一

# 1. 分科会の紹介

## 1.2 最終目的

津波防災対策検討分科会は、その**設立後2年以内**を目途に、津波防災計画立案手順のガイドラインの作成に要する**資金を確保**した後、**発展的に解散**し、「**津波防災計画立案手順作成分科会**」に改組する。その**3年後(2024年9月)**までにガイドラインを完成し、公表する。

# 1. 分科会の紹介

## 1.3 事業全体計画(2019年10月設定)

2019年10月～2021年9月

分科会を2カ月毎12回、公開検討会を3回開催

2021年9月

津波防災計画策定指針案の全体像を公表

2021年10月

新組織が津波防災計画策定指針作成を開始

2024年9月

津波防災計画策定指針を公表

新型コロナウイルス感染症流行により修正の見込み

## 2. 活動報告

### 2.1 広報・会員募集活動

- 2019年11月06日 分科会メンバー募集チラシを作成し、国際津波防災学会第3回総会で配布
- 2019年11月15日 J'sカフェ2019秋(主催:日本都市計画家協会)にて分科会メンバー募集チラシを配布
- 2019年11月16・17日 サイエンスアゴラ2019良縁創出企画「お台場100人論文」で課題提案
- 2019年11月26日 分科会ホームページ開設
- 2019年12月18日 Facebookに分科会のページとグループを開設
- 2020年01月11日 第36回沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウムで紹介

## 2. 活動報告

### 2.2 分科会集会

2019年12月17日 **第2回分科会** (日本大学理工学部)

参加者5名、

第1回公開討論会のテーマ、話題提供者についての  
意見交換他

2020年02月17日 **第3回分科会** (日本大学理工学部)

参加者7名、

講演: 東日本大震災後の津波防災地域づくりにおける  
技術的課題 (星上 幸良 日本大学理工学部)

第1回公開討論会 (3月16日開催) の準備状況、他

2020年10月29日 **第1回公開検討会**

(東京会場とオンライン会場の同時並行開催)

参加者: 37名 (東京会場14名、オンライン会場23名)

講演: 3件、コメントータ話題提供: 4件

## 2. 活動報告

### 2.3 第1回公開検討会

名称:「地域住民による津波防災対策計画立案のための  
ガイドライン」第1回公開検討会

開催日時:2020年10月29日(木)14時~17時

開催場所:

京都大学東京オフィス大会議室

(東京都千代田、新丸の内ビルディング 10階)

オンライン会場(Zoom会議システム)

趣旨:「地域住民による津波防災対策計画立案のための  
ガイドライン」の内容等に関する意見を広く求める。

定員:東京会場(27名、先着順)、申込15名(14名)

オンライン参加(100名、先着順)、申込26名(23名)

参加費:無料

経費:篤志家の寄付金

# プログラム:

- 14:00 趣旨説明 市川 洋(津波防災対策検討分科会 幹事)
- 14:05 講演1 津波防災対策計画作成**ガイドラインの必要性**について  
市川洋(元 海洋研究開発機構 上席研究員)
- 14:25 講演2 津波防災対策の**体系化**について  
浜田英外(防波システム研究所 代表)
- 14:45 講演3 防災**行政**と地域**住民**  
宮本卓次郎(日本大学 理工学部)
- 15:05 休憩
- 15:20 総合討論 司会:市川洋・浜田英外  
コメンテータ:
- 港湾津波防災工学研究者の立場から**  
増田光一(日本大学 理工学部)
  - 被災地区住民の立場から** 大棒秀一(NPO法人津波太郎 理事長)
  - 市町村役場防災担当職員**の立場から  
宮川智明(黒潮町 情報防災課 課長補佐兼係長)
  - ランドスケープ・デザイナー**の立場から  
廣瀬俊介(風土形成事務所 主宰)
- フロアーからの発言
- 16:45 閉会挨拶 浜田英外(津波防災対策検討分科会 幹事)
- 16:50 解散
- 17:20 閉場

事後アンケート調査(11月10日まで)で、これまでに回答した17名の参加者の感想(抜粋):

- ・ Zoomの使い方に(主催者が)習熟していなかったため、発表も討論も十分に行えなかった。
- ・ 過去未来を含めて、被災地は深刻な状況を抱えています。登壇先生方の講演はそこまで踏み込んでいなかったという印象。また、そのことで質問しようにも通信回線の不具合で欲求不満が残った。
- ・ テーマに対する公開検討会の試みは良かったと思うが、オンラインの接続が悪くなくて意見に耳を集中できなかった。
- ・ 回線トラブルにより一部の講演が聴講できなかったが、全体の内容は良かった。
- ・ Webは混乱したが、ここまで来た状況がわかって認識を新たに出来た。
- ・ 初の試みでzoomを使ってのネット討論は、瞬時に、地方と会場が情報を共有できることが実感された。
- ・ 防潮堤に係る問題点が浮き彫りにされた。

「地域住民による津波防災対策計画立案  
のためのガイドライン」第1回公開検討会  
2020年10月29日  
京都大学東京オフィス

# 津波防災対策計画作成ガイドラインの 必要性について

市川洋  
(元 海洋研究開発機構 上席研究員)

# 1. 「地域住民による津波防災対策計画立案のためのガイドライン」が必要な理由

東日本大震災直後に、  
各地区で**巨大防潮堤建設**をめぐって  
**大きな混乱**が生じた主な理由

巨大防潮堤でも津波の被害を防げないのに、  
生態系破壊などの懸念があるのに、  
巨大防潮堤以外の選択肢もあるはずなのに、

巨大防潮堤建設計画が**性急に推進**されたこと

- ・ 震災復興事業の遅れに関連する2017年7月の報道記事の中で紹介されている住民の言葉:

「行政のお絵かき、学者のたわごと、マスコミのおめでたさ、NPOのおせっかい。これがなければ、とっくに復興していた」



2017年7月28日付け Yahoo!ニュース  
特集 巨大防潮堤で『海が見えない』防災か日々の暮らしか  
〈ある住民の声の紹介〉

<https://news.yahoo.co.jp/feature/699>

- ・ 被災地区の**2020年3月**の復興状況についてのTVニュース番組の特集で紹介されている被災住民の言葉:

「**復興**という名の**災害**だ」

# 特集



【特集】『復興という名の災害だ』小さな街が直面する人口激減、孤独死…東日本大震災「9年後の現実」

© 2020年3月10日

関西テレビ カンテレ報道ランナー 2020年3月10日  
特集 9年後の現実 3.11を考える  
<https://www.ktv.jp/news/feature/20200309/>

# ガイドライン作成の目的

東日本大震災復興事業計画  
の決定・実施に際し、  
性急に巨大防潮堤建設を進めること  
をめぐって生じた  
大きな混乱  
を

繰り返さない

津波は、**制御不能**な大自然の脅威。  
津波による災害は**避けられない**。

## 津波減災対策の要は

想定外の津波が来襲した際でも、  
失われる命を**出来るだけ**少なくするために、  
**種々の方策を体系化し、**  
**各地区の実情に合わせて**  
**事前に準備しておくこと**

# 人々が津波に対して抱く恐怖の源

被災によって、

命が奪われることへの恐怖

+

それまでの生活が維持できなくなることへの不安

津波に襲われても、命さえあれば、  
いつかは元の生活に戻れる  
という確信を持つことができれば、  
人々は避難行動を優先するであろう。

したがって、  
地区津波防災対策計画には、

各地区の自然と産業構造に配慮した  
**津波発生時の減災・避難計画**

各地区住民の実情に合わせた  
**短期的な災害復旧計画**

各地区の持続的発展のための  
**長期的な社会経済計画**

が含まれている必要がある。

## 2. ガイドライン案を作成する際の検討項目

- 1) ガイドラインの**内容・構成**
- 2) ガイドライン作成後の**運用・更新体制**
- 3) ガイドラインの作成・運用**資金**
- 4) 検討課題例
  - a. 津波災害の特徴
  - b. 既存の津波防災対策指針などの調査
  - c. 津波防災対策手法・技術の**体系化**
  - d. **合意形成**手続き
  - e. **事例**収集
  - f. **イラスト**作成
  - g. **正しさ**と**分かり易さ**(査読・校閲体制)
  - h. **多様な視点**の確保(女性、外国人、一人暮らし)

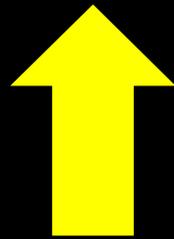
「ガイドライン」が、現場住民から  
行政のお絵かき、学者のたわごと、  
マスコミのおめでたさ、NPOのおせっかい、  
といわれないうちには、どうしたら良いのか？

多様な参画者の確保？

知識・情報の寄せ集めは不可

論理（建前、理想）と感情（本音、現実）  
を結ぶ想像力

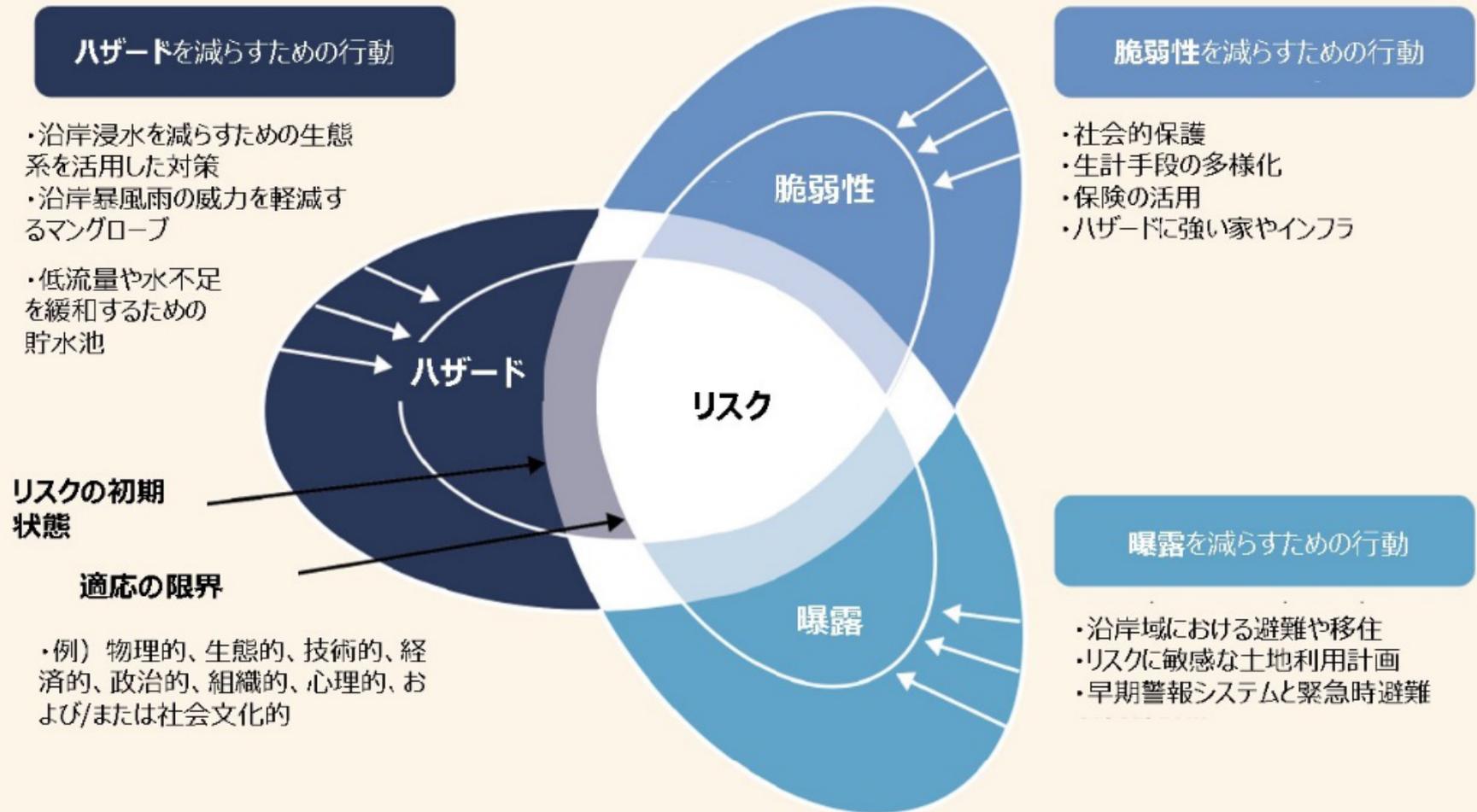
大規模津波発生の日が迫っている。  
時間がかかる合意形成よりも、  
具体的な対策の確定を急ぐべき！



津波防災対策を  
日常的に議論し続けることが、  
津波来襲に際し、  
迅速な対応・決定を容易にする  
と期待している

# 2-4c. リスク(ハザード、脆弱性、曝露)対策

Figure CB2.1



海洋政策研究所・環境省 (2019): 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)海洋・雪氷圏特別報告書(SROCC)公表記念シンポジウム資料,

[https://www.spf.org/opri/news/20191015\\_2.html](https://www.spf.org/opri/news/20191015_2.html)

# 2-4d. 社会生態学的回復力の強化戦略

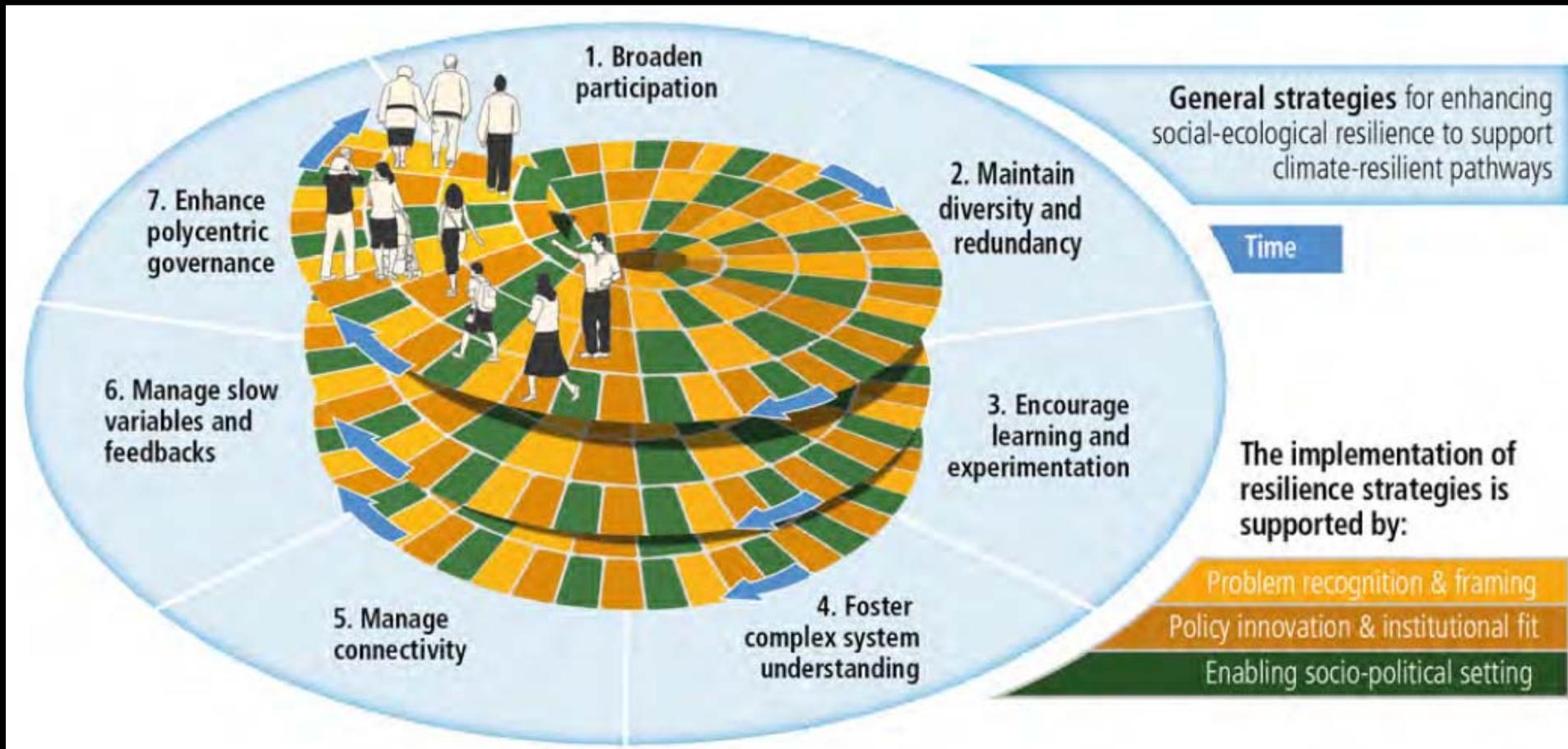


Figure CB2.2: General strategies for enhancing social-ecological resilience to support climate-resilient pathways.

IPCC (2019): The Ocean and Cryosphere in a Changing Climate, Summary for Policymakers. 1170 pp.

# 分科会メンバーを募集中!

資格: 本分科会の趣旨に賛同する会員

申込先

津波防災対策検討分科会ウェブサイト

<https://sites.google.com/view/tsunami-guideline>